

令和6年度工場見学会

(株)オーテック環境システム事業部 東北支店
営業部 寺道 昭博



令和6年10月23日（水）東北空調衛生工事業協会の工場見学会が開催されました。その日の仙台は朝から少し曇っており、これから向かう山形方面の天気予報では夕方から雨が降る予報になっている状況だった為、じつは少し気が乗らない感じの出発となりました。はじめに向かった先は「株式会社エフピコ山形選別センター（山形県寒河江市）」です。

株式会社エフピコは広島県福山市に本社を置く、食品トレーや容器の製造・販売事業を通じて、食品トレーや容器のリサイクル事業にもいち早く取り組み、北は北海道から南は九州まで全国的に事業を展開する製造・物流・販売・リサイクルのネットワークを構築する大企業です。例えば、普段コンビニやスーパーなどに陳列されている食品のほとんどが発泡スチロール製のトレーによってラップがしてあったり、透明なPET容器に入っていたり、または耐熱性の容器に入りそのままレンジで加熱できたりと、そんな身近にあるものを製造・販売・リサイクルをしているのが、まさに株式会社エフピコとなります。

今回の工場見学は、リサイクル事業の部分に特化された”山形選別センター”で実際の作業を見学させて頂きました。消費者がスーパーなどに設置された回収ボックスにトレーや容器を持ち込み、そのトレーや容器が選別センターに運び込まれます。そこでまずは人の手で再生できないトレーや容器を取り除き、白いトレーと色・柄つきトレーに手作業で選別します。その作業では障害者の採用（雇用）に積極的に取り組まれており、速いベルトコンベアの流れ作業の中、どの作業員も真剣な眼差しで集中して選別を行っていたのがとても印象的でした。次に、機械の中でトレーに強風を吹き付け細かい異物を落としてからトレーを砕きます。砕かれたトレーは水で1回目、温水と洗剤で2回目を洗浄してから、すすいで脱水します。最後は粉々に小さく粉碎し熱で溶かして粒状に加工されエコトレーの原料となる再生ペレットが出来上がります。そして、このペレットを再びトレーに成形するためには、原料ペレットの他に発泡剤を混ぜ合わせ装置に流し込み金型で押し出し、まずはトレーの形にする前の平らな再生シートを作ります。今度はその再生シートをヒーターで加熱し、トレーの金型でプレスし裁断され再生トレーが完成し、スーパーなどへ出荷される工程となっていました。



 エフピコ愛パック(株)
山形選別センター（外観）

右下図は、株式会社エフピコの取り組む事業サイクルを簡潔にまとめたものになります。

<みんなで行うリサイクル>

使用済みトレーやPETボトルのリサイクルはエフピコだけではできません。

消費者の皆様もリサイクルに協力いただき、全員参加で行っています。

自宅で洗って乾かした使用済みトレーはスーパーマーケットの店頭などに設置された回収箱で集められ、さらにエフピコが配達の帰りのトラックで引き取りエフピコが再生します。

「消費者」「スーパーマーケット」「包材問屋」「エフピコ」の4者一体となることで、大量の使用済みトレーやPETボトルがムダなくスムーズにリサイクルされるのです。

※上記、㈱エフピコ
資料より一部抜粋



そして、工場見学の説明の中で最も印象深かったことは、消費者の方々に持ち込んで頂いたトレーやPET容器の中に、自宅での洗浄がされていなかったり、または汚れが目立つものが混入されていると、回収ボックス1つ分全てのトレーやPET容器から悪臭が放たれ選別の対象外となってしまうそうです。また、間違ってもアルミやビンなどが混入されてしまうと選別を行う作業員が手を負傷したり、工場のラインが停止してしまうそうです。消費者の方に悪意は無いと信じたいと同時に、これではせっかくの“みんなで言うリサイクル”も台無しになってしまう事に少し寂しくなりました。但し、今回このレポートで、リサイクルに関する知識や再生サイクルについて興味を持って頂いた消費者の方々には、回収ボックスに持ち込めるトレーやPET容器にも”水洗い”と”乾燥”のルールを守る意味が解って頂けたのでは無いかと考えます。



午前の工場見学が終わり「チェリーランド（山形県寒河江市）」へ移動し昼食を取りました。

そして、昼食後は同じく寒河江市にある寺院、慈恩寺（じおんじ）へ移動しました。

慈恩寺は仏教寺院で、現在は慈恩宗の本山であり宗教法人としての登録名は「本山慈恩寺」となっています。慈恩寺は約千年の歴史を持つ国重要文化財の寺院で、三重塔や本堂などの建造物や仏像が見どころとなっていました。建造物や仏像は国・県・市の重要文化財に指定されているものが数多くあり、1年を通して行われる様々な行事も見どころの一つとなります。特に毎年5月5日に行われる“慈恩寺舞楽”は国指定重要無形民俗文化財にも指定されています。



まずは、慈恩寺の麓にオープンした「慈恩寺テラス」で慈恩寺の旧境内の魅力や千年息づく秘仏たちの魅力を多彩なプログラムで情報収集してから、約446千㎡（東京ドーム約10個分）と非常に広大な慈恩寺旧境内一帯を拝観することで、開山1,300年の歴史について、より一層の理解や感動が手に入れられるのかと思います。皆さんも是非一度、古の人々の思いや歴史と向き合うことで、“現代に時をつなぐ”ような優雅な時間を過ごしてみるのもいかがでしょうか？

■私は夕方からの雨予報から、折りたたみ傘を携帯し慈恩寺旧境内に向かいました。しかし、天気予報は外れ雨は降りませんでした。めでたしめでたし☺



最後になりますが、令和6年度工場見学会を手配して頂いた技術委員会の皆様に深く感謝の念と御礼を申し上げます。そして、東北空調衛生工事業協会様の益々のご発展をお祈り申し上げます。